

【別紙様式3】平成27年度 環境生活部 業務執行計画

＜基本情報＞											
施策名	人と自然との共生を基本とした環境の保全と創造						<input type="checkbox"/> 内部等管理業務	施策コード	03 - 05		
計画等の位置付け	総合計画	<input type="radio"/>	未来づくり戦略	<input type="radio"/>	前年度に二次政策評価意見を付与	<input type="radio"/>	所管部等名	環境生活部		関係課名	生物多様性保全課 エゾシカ対策課
	地域重点プロジェクト	<input type="radio"/>	特定分野別計画	<input type="radio"/>			作成責任者名	環境生活部長 宮川 秀明			
							照会先グループ・内線	生物多様性保全課生物多様性保全グループ 内線(24-361)			

＜計画：Plan＞ 業務目標の設定

1 業務目標及び今年度の取組	(1)業務目標 【当該施策分野において目指すべき具体的な姿】	(2)今年度の取組 【予算や組織改編等への反映状況】
	<p>・北海道生物の多様性の保全等に関する条例に基づき、外来種による影響の防止など条例で示す取組を着実に推進する。</p> <p>・漁業被害をもたらしているアザラシ類への対策など野生鳥獣の適正な保護管理のための取組を推進する。</p> <p>・知床世界自然遺産など優れた自然環境地域の保全と自然公園の適切な利用に向けた取組を推進する。</p> <p>・愛がん動物の愛護と適正飼養を推進する。</p> <p>・北海道エゾシカ対策推進条例に基づき、年度別・地域別の捕獲目標を定めた捕獲推進プランを着実に実行していく。</p> <p>・エゾシカの個体数管理を推進し、農林業や自然植生等への被害の拡大防止・軽減を目指すとともに、エゾシカが有する価値を資源として最大限に活かすため、捕獲個体の有効活用を促進するなど、総合的なエゾシカ対策を遂行する。</p>	<p>＜主な取組＞</p> <p>①希少野生動植物の保護 ②指定外来種の指定及び外来種防除の推進</p> <p>③知床世界自然遺産地域など優れた自然環境の保全</p> <p>④自然公園の適正な利用のための施設の整備・維持管理</p> <p>⑤野生鳥獣の適正な保護管理の推進 ⑥新規狩猟者の育成・確保</p> <p>⑦動物愛護と適正な飼養に関する普及啓発</p> <p>⑧エゾシカの捕獲対策及び有効活用の促進</p> <p>(新たな取組等)</p> <p>・「北海道アザラシ管理計画」に基づき、ゴマフアザラシ周年定着個体の効果的削減を図るための取組を実施する。</p> <p>・安定した鳥獣捕獲体制を維持するため、捕獲経験の少ない狩猟者を対象にした講習を新たに実施し、捕獲技術の向上を促進する。</p> <p>・効率的な手法による捕獲により、エゾシカの生息数の低減を加速化させるため、指定管理捕獲や管理エリア評価選定システムの開発を行う。</p> <p>・有効活用を推進するため、エゾシカの総合的な利活用やエゾシカ肉のブランド化事業を実施する。</p> <p>・高品質のエゾシカ肉を安定的に確保するため、生体長距離輸送の実証モデル事業を実施する。</p> <p>・世界遺産登録10周年(H27)を節目に、「知床」の価値を改めて見つめ直し、この貴重な資産を後世にしっかりとつなげるよう、道や道民の担う役割分担を明らかにする条例や「世界自然遺産・知床の日」の制定検討など「知床メモリアルアクション」を展開する。</p>

2 前年度意見への対応	(1)前年度「改善意見」 【二次政策評価における「5改善意見」の内容】	(2)改善意見への対応 【前年度評価「5改善意見」への対応状況】
	<p>(具体的な意見内容)</p> <p>【総計】</p> <p>「新・北海道総合計画」に掲げる「豊かな自然環境の保全とみどりの環境づくり」の一層の推進を図るため、優れた自然環境の保全や人々と自然とのふれあいの推進に向け、より実効性の高い取組となるよう検討すること。</p> <p>【行財政改革】</p> <p>鳥獣被害対策の総合的な推進を図る観点から、鳥獣被害対策チームの効果や課題について検証を行った上で、関係各部と十分連携を図りながら、引き続き効率的・効果的な執行体制を検討すること。</p> <p>【その他：人口減少】</p> <p>人口減少問題への対応の視点を踏まえ、本道の居住環境の魅力の向上に資するよう、豊かな水と森林など美しく豊かな自然環境の保全の推進に向け、より実効性の高い取組となるよう検討すること。</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 総計 <input type="checkbox"/> 公約 <input checked="" type="checkbox"/> 行財政改革 <input type="checkbox"/> 進捗状況 <input type="checkbox"/> 前年度二次意見 <input type="checkbox"/> 指標設定 <input type="checkbox"/> 重点課題 <input checked="" type="checkbox"/> その他 </p>	<p>(具体的な主な取組)</p> <p>・本道の優れた自然環境の保全とふれあいを推進するため、老朽化等による自然公園施設の整備を進めることとし、H27年度は北海道新幹線開業に合わせ多くの利用者が訪れることが予想される大沼国定公園の整備を行う。</p> <p>・鳥獣被害対策チームでは、関係各部の鳥獣被害防止対策に係る情報・意見交換に加え、構成員が連携して現地での被害実態調査や道民への情報発信などを行い、大きな成果が上がっており、引き続き関係各部がより連携を強化し鳥獣被害対策の総合的な推進を図っていく。</p> <p>・「本道における人口減少問題に対する取組指針」に基づき、本道における豊かな環境を将来にわたり維持していくため、関係法令に基づく行為規制や利用者指導、関係機関等と連携した監視活動、社会情勢の変化に対応した管理計画等の見直しなどにより、知床世界自然遺産など優れた自然環境の保全と適切な利用を推進するとともに、深刻な農林水産業被害や生態系への影響をもたらしているエゾシカなどの野生鳥獣の適正な保護管理のための各種調査や捕獲の推進、条例に基づく指定外来種の規制など人と自然との共生を基本とした取組を進める。</p>

3 成果指標の設定	(1)定量的指標の設定 【「1(1)業務目標」の達成状況を把握できるデータによる成果】 ※「H27目標値」欄の()表示は、経過年としての参考値									
	定量的指標名	単位	H27目標値	中長期目標値	目標年次	基準値	年次	新規/変更の別	同じ指標を掲げる関連計画	関連する主な取組
	1) すぐれた自然地域の面積	ha	(901,172)	903,000	H29	892,946	H18		新・北海道総合計画 環境基本計画【第2次計画】(特定分野別計画)	③、④
	2) タンチョウの生息数	羽	(1,178)	1,305	H29	861	H22		環境基本計画【第2次計画】(特定分野別計画)	①
	3) アライグマの防除実施計画の策定市町村数	市町村	(159)	179	H29	108	H22		環境基本計画【第2次計画】(特定分野別計画)	②
	4) 自然公園利用者数	都道府県順位	2	2以内	H29	2	H17		新・北海道総合計画 環境基本計画【第2次計画】(特定分野別計画)	③、④
	5) 犬・猫の安楽死処分頭数	頭	(5,619)	4,893	H29	7,435	H22		環境基本計画【第2次計画】(特定分野別計画)	⑦
	6) エゾシカ推定生息数(東部)	万頭	(14)	10	H28	29	H22		第4期エゾシカ保護管理計画	⑤、⑦、⑧
	7) エゾシカ推定生息数(西部)	万頭	(30)	28	H28	36	H22		第4期エゾシカ保護管理計画	⑤、⑦、⑧
	8) 狩猟免許所持者数	人	(9,896)	10,000	H29	9,637	H22			⑤、⑥
(2)定性的指標の設定 【数値指標ではカバーできない定性的な成果】										
定性的指標の内容					客観的な分析の考え方					関連する主な取組
1)										